

## 2-4 共用の状況

2012年3月よりSACLAの供用が始まった。利用期については年間をA期、B期の2期に分けて設定し、利用研究課題は各期ごとに公募・選定のうえ実施されている。2014年度は、2014A期においては申請49課題のうち28課題が、2014B期においては申請70課題のうち29課題がそれぞれ選定され、利用研究が行われた（2014A期の公募・選定は2013年度中に実施）。更に、2015A期においては申請66課題のうち33課題が選定され、利用研究が行われることとなった。以下に、これら各期のSACLA利用制度、課題審査基準、公募・審査・採択スケジュール、応募・採択・実施状況について示す。

### 1. 利用制度

- 年間をA期、B期の2期に分けて利用期を設定する。
- ビームタイムは12時間を1シフトとし、基本的に当該シフト単位で配分する。
- 課題種は、いずれも成果非専有の
  - ① 成果の創出を戦略的に図る観点から、国の方針等を踏まえた上でテーマを設定し、設定されたテーマに沿って公募する重点戦略課題※
  - ② 特定のテーマ等を設定せずに公募する一般課題(=重点戦略課題以外の課題)とする。

※文部科学省の「X線自由電子レーザー利用推進計画」において定められた以下の2分野×5テーマを設定。  
 なお、2012B期より、平成24年度に開始された文部科学省委託事業「X線自由電子レーザー重点戦略研究課題」に係る利用研究課題も含まれる。

- (1) 生体分子の階層構造ダイナミクス
  - ・創薬ターゲット膜タンパク質のナノ結晶を用いた構造解析
  - ・細胞全体及びその部分の生きた状態でのイメージング
  - ・超分子複合体の一分子構造解析
  - ・一分子X線回折実験とスパコン解析を融合させたダイナミクス研究
  - ・ポンプ-プローブ法を適用した動的構造解析
- (2) ピコ・フェムト秒ダイナミックイメージング
  - ・気相・液相・固相反応ダイナミクス
  - ・界面反応の超高速過程
  - ・電荷発生・電荷移動ダイナミクス
  - ・極端条件下の超高速過程
  - ・動的X線分光科学

- 海外ユーザーについては、国内のコンタクトパーソン、すなわち国内の共同研究者の参画を利用条件とする。
- BL3の実験ステーションEH5（SACLA-SPring-8相互利用実験施設）を利用する課題については、「XFELのみ利用」又は「SPring-8（BL32XU理研ターゲットタンパクビームライン）の放射光も利用」のいずれも可能。
- 成果非専有利用における成果については、課題実施期終了後3年以内にSACLA利用を明記した査読付き論文等の発表を義務付ける。

### 2. 課題審査基準

利用研究課題を次の基準に沿って総合的かつ専門的に検討評価して課題の選定を実施する。なお、選定に当たっては、科学技術基本計画等国の方針を踏まえるとともに、国際協調と国際競争力の強化のバランスに配慮しつつ、独創的で開拓的な研究が採り上げられるよう留意する。更に、人材の育成に関する機能を果たす課題についても配慮する。

- (1) 科学技術的妥当性として、次の①又は②に該当すること。
  - ① 最先端の科学技術的価値（斬新性、革新性）を有すること又はSACLAの新たな可能性の開拓に貢献するとともに、以下の（イ）又は（ロ）のうち、いずれかに該当すること。
    - （イ）学術的な貢献度が高いこと
    - （ロ）産業利用の推進に貢献すること
  - ② 重要な社会的意義を有する又は社会経済へ寄与すること
- (2) 研究手段としてのSACLAの必要性
- (3) 提案課題の実施及び成果の利用が平和目的に限定される等、科学技術基本法や社会通念等に照らして、当該利用研究課題の実施が妥当であること
- (4) 実験内容の技術的な実施可能性
- (5) 実施内容の安全性
- (6) 重点戦略課題については、課題解決に向けた道筋の明確性についても重視する。
- (7) 配分可能ビームタイムが利用研究課題の実施に必要なビームタイムを下回る場合、ビームタイム配分可否境界上の重点戦略課題及び一般課題において、選定に際し同等の評価を得た課題については、重点戦略課題の重要性に鑑み、その選定を優先する。

3. 公募・審査・採択スケジュール

○2014B期  
 <2014年>  
 5月 1日 ホームページで募集案内公開  
 6月13日 応募締切  
 ~この間、審査基準に則した各課題の個別審査を実施~  
 7月28日 第7回SACLA利用研究課題審査委員会  
 (課題審査)  
 7月31日 第9回SACLA選定委員会  
 (審査結果の意見聴取)  
 8月 8日 JASRIとして採否決定、結果通知  
 10月15日 2014B期開始  
 ○2015A期  
 <2014年>  
 10月10日 ホームページで募集案内公開

11月14日 応募締切  
 ~この間、審査基準に則した各課題の個別審査を実施~  
 12月24日 第8回SACLA利用研究課題審査委員会  
 (課題審査)  
 <2015年>  
 1月14日 第10回SACLA選定委員会  
 (審査結果の意見聴取)  
 1月19日 JASRIとして採否決定、結果通知  
 3月11日 2015A期開始

4. 応募・採択・実施状況

最初の利用期である2012A期以降の応募・採択状況について表1に、課題実施状況について表2に示す。

利用推進部

表1 応募・採択状況（申請課題を実験責任者の所属で区分）

利用期	課題種	産業界		大学等教育機関		国立試験研究機関等		海外機関		計		採択率 (採択/応募)
		応募課題数	採択課題数	応募課題数	採択課題数	応募課題数	採択課題数	応募課題数	採択課題数	応募課題数	採択課題数	
2012A	重点戦略課題	1	1	30	10	12	7	12	7	55	25	45%
	一般課題	1	1	16	5	4	2	8	5	28	12	
2012B	重点戦略課題	3	1	22	14	11	7	13	5	49	27	55%
	一般課題	3	1	15	11	6	5	9	3	30	19	
2013A	重点戦略課題	1	1	26	11	15	8	17	4	59	24	41%
	一般課題	1	1	16	8	9	6	8	1	33	15	
2013B	重点戦略課題	1	1	27	12	18	11	22	6	68	30	44%
	一般課題	1	1	19	9	10	7	8	3	37	19	
2014A	重点戦略課題	1	1	18	12	12	8	18	7	49	28	57%
	一般課題	1	1	15	10	7	5	10	5	32	20	
2014B	重点戦略課題	1	1	29	11	16	12	24	5	70	29	41%
	一般課題	1	1	22	9	8	5	10	3	40	17	
2015A	重点戦略課題	0	0	26	12	19	11	21	10	66	33	50%
	一般課題	0	0	19	10	12	6	11	7	42	23	

表2 課題実施状況（実施課題を実験責任者の所属で区分）

利用期	課題種	産業界		大学等教育機関		国立試験研究機関等		海外機関		計		延べ 来所者数
		実施課題数	実施シフト数	実施課題数	実施シフト数	実施課題数	実施シフト数	実施課題数	実施シフト数	実施課題数	実施シフト数	
2012A	重点戦略課題	1	2	10	50	7	42	7	32	25	126	297人
	一般課題	1	2	5	34	2	12	5	20	12	66	
○上記のほか、JASRI スタッフによるインハウス課題が計4課題（計14シフト）実施。												
2012B	重点戦略課題	1	4	14	76	7	44	5	30	27	154	461人
	一般課題	1	4	3	12	2	12	2	12	8	40	
○上記のほか、JASRI スタッフによるインハウス課題が計4課題（計16シフト）実施。												
2013A	重点戦略課題	1	2	11	48	8	44	4	23	24	117	268人
	一般課題	1	2	8	34	6	34	1	7	15	75	
○上記のほか、JASRI スタッフによるインハウス課題が計4課題（計10シフト）実施。												
2013B	重点戦略課題	1	2	12	54	10	55	7	28	30	139	410人
	一般課題	1	2	9	42	6	35	4	12	19	89	
○上記のほか、JASRI スタッフによるインハウス課題が計4課題（計14シフト）実施。												
2014A	重点戦略課題	1	2	12	61	8	43	7	41	28	147	400人
	一般課題	1	2	10	51	5	28	5	29	20	108	
○上記のほか、JASRI スタッフによるインハウス課題が計5課題（計15シフト）実施。												
2014B	重点戦略課題	1	2	11	54	12	58	5	26	29	140	430人
	一般課題	1	2	9	45	5	27	3	15	17	87	
○上記のほか、JASRI スタッフによるインハウス課題が計4課題（計9シフト）実施。												